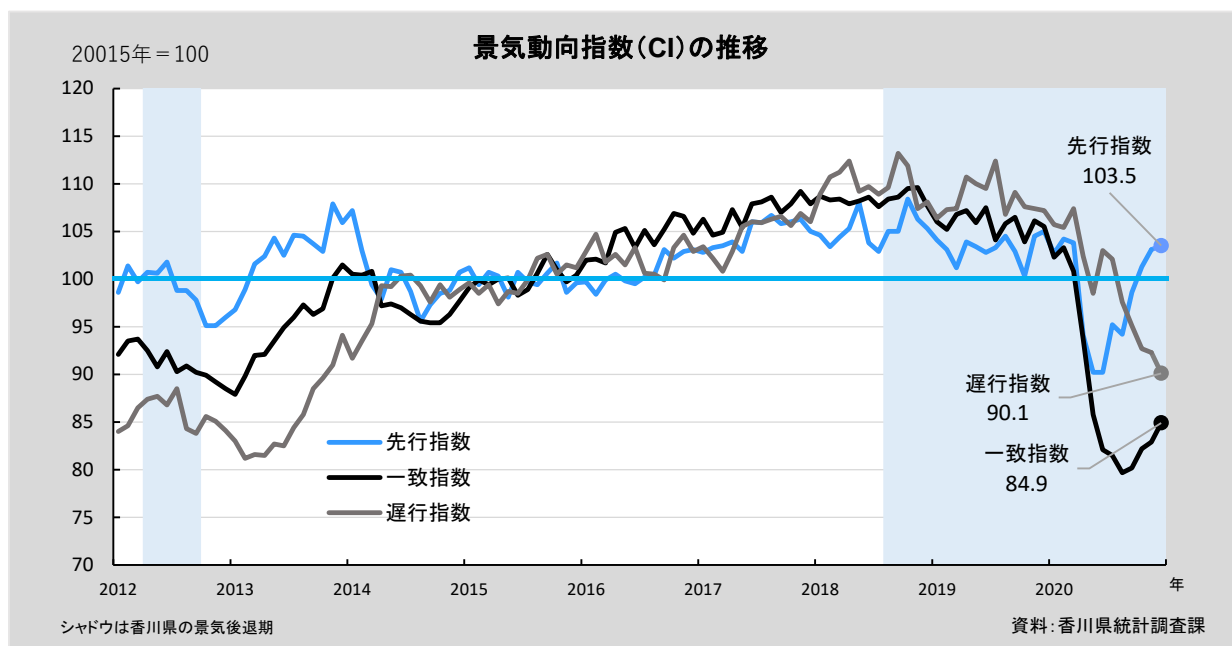


<b>概況</b>	景気は持ち直しつつあるが、感染再拡大の影響で足踏みがみられる。
<b>個人消費</b>	一部弱さがみられるが、持ち直しの動きが続いている。
<b>住宅投資</b>	下げ止まっている。
<b>公共投資</b>	高水準で推移している。
<b>生産活動</b>	持ち直しの動きがみられる。
<b>雇用情勢</b>	求人減により弱い動きとなっている。
<b>貿易</b>	輸出、輸入ともに弱い動きとなっている。
<b>観光</b>	弱い動きとなっている。

### 景気動向指数(かがわCI)

一致指数 4カ月連続上昇



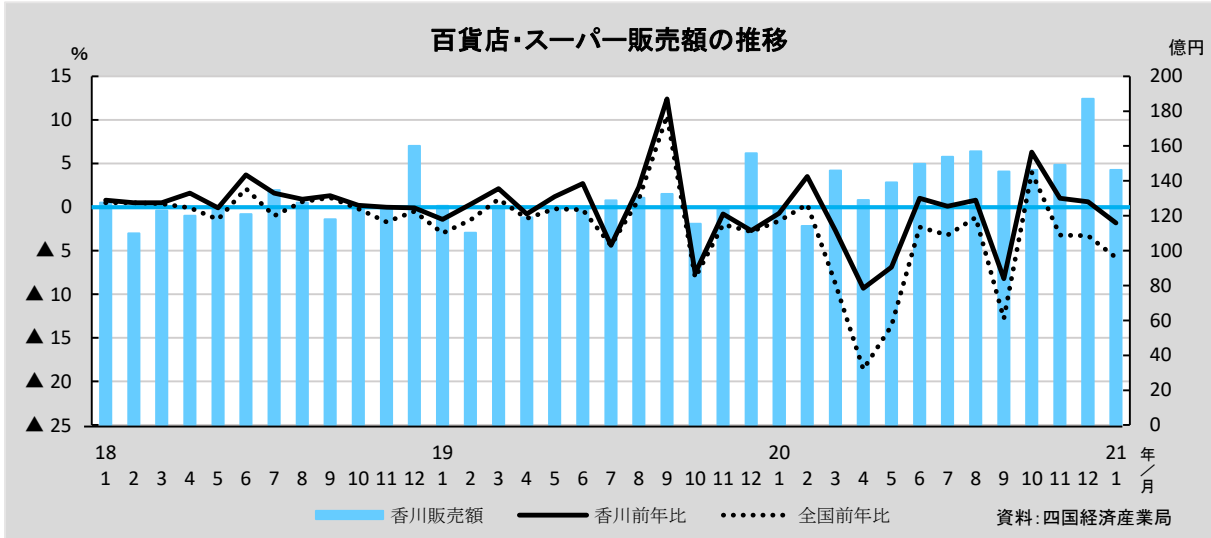
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は84.9（前月比+2.0ポイント）と4カ月連続で上昇。CI先行指数は103.5（同+0.4ポイント）と4カ月連続で上昇。CI遅行指数は90.1（同▲2.2ポイント）と6カ月連続で下降。

景気の現況を示す一致系列の個別指標では、建築着工床面積、鉱工業生産指数、雇用保険受給者実人員等が上昇に寄与したことにより、前月から2.0ポイント上昇。

採用景気指標	先行系列		一致系列		遅行系列	
	寄与度	寄与度	寄与度	寄与度	寄与度	寄与度
1 新規求人数	▲ 1.36	1 雇用保険受給者実人員	0.42	1 常用雇用指数	0.22	
2 乗用車新車登録台数	▲ 0.38	2 有効求人倍率	▲ 0.30	2 有効求職者数	0.59	
3 鉱工業在庫率指数	1.70	3 所定外労働時間指数	0.11	3 消費者物価指数	▲ 0.31	
4 生産財生産指数	0.42	4 鉱工業生産指数	0.50	4 家計消費支出	▲ 0.62	
5 新設住宅着工戸数	1.23	5 鉱工業出荷指数	0.24	5 鉱工業在庫指数	▲ 1.65	
6 金融機関貸出残高	0.38	6 建築着工床面積	0.90	6 法人事業税調定額	0.31	
7 消費者態度指数	▲ 1.42	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	0.06	7 第3次産業活動指数	▲ 0.61	

●百貨店・スーパー販売額

4カ月ぶり減少 ↓



2021/1月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	101,149	64,704	1,059,594	2,547	8,577	96,154	130,605	591	1,463,921
前年同月比(%)	▲29.7	▲15.6	1.3	14.4	▲1.5	20.8	3.1	▲50.3	▲1.8

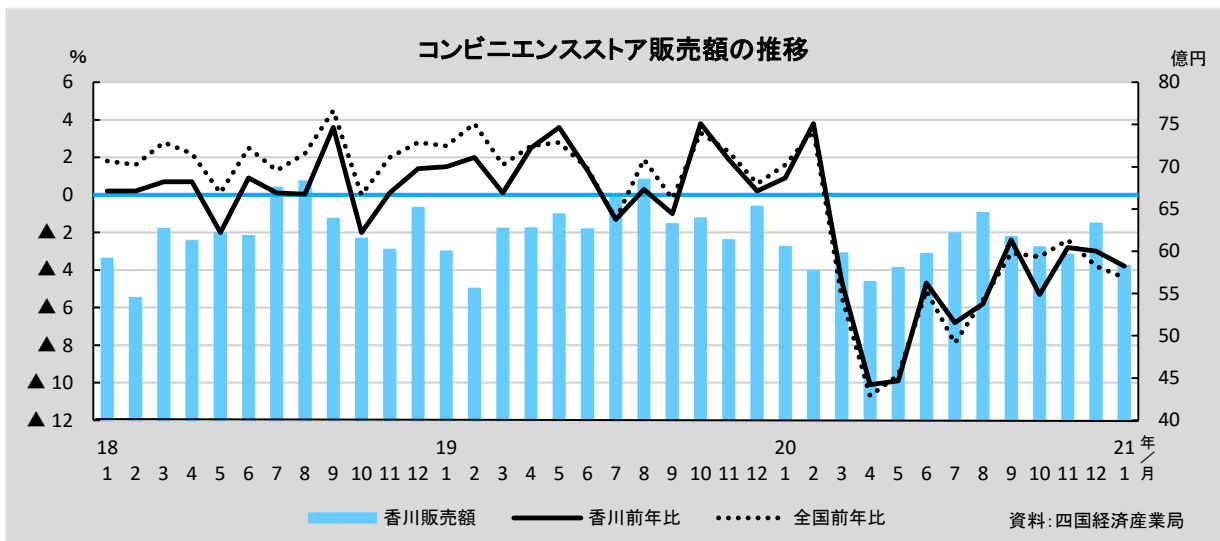
1月の百貨店・スーパー全店（85店）の販売額は146.4億円で前年同月比▲1.8%となった。衣料品・身の回り品が前年を下回り4カ月ぶりに減少した。

品目別にみると、肉食傾向が続き、「飲食料品」は同+1.3%、「家庭用品」は同+20.8%と好調に推移した。

一方、「衣料品」は外出自粛により同▲29.7%と大幅に減少した。

●コンビニエンスストア販売額

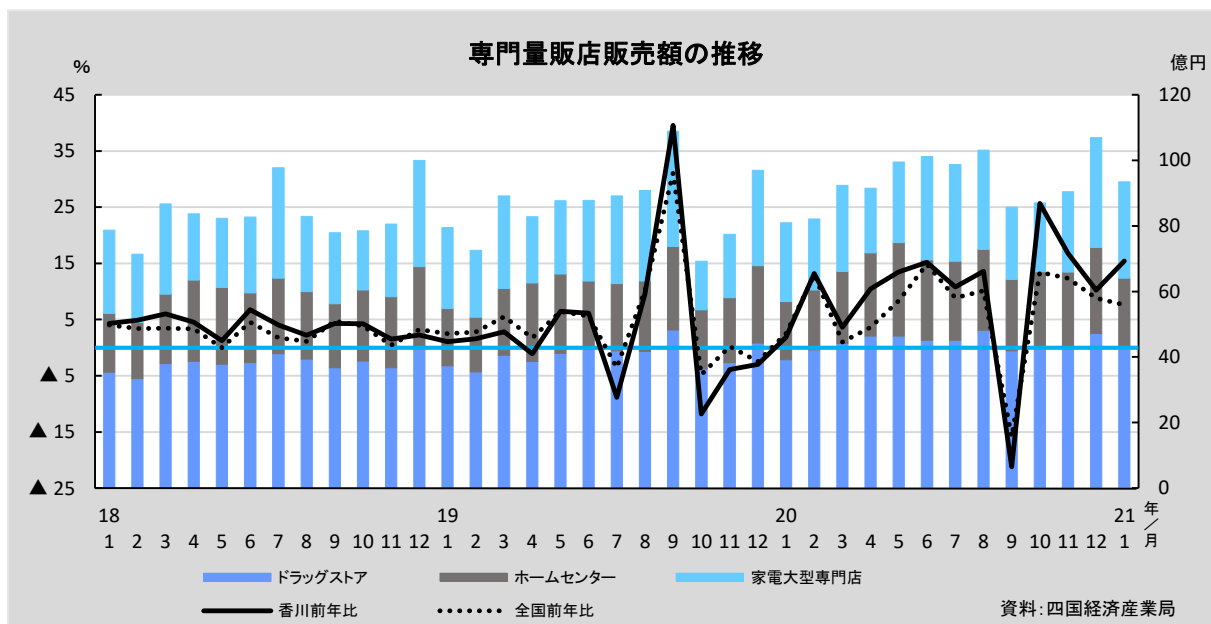
11カ月連続減少 ↓



1月のコンビニエンスストア全店（411店）の販売額は58.3億円で、前年同月比▲3.8%となった。外出自粛・初詣の分散化等による来店客数の減少で、ファストフード、化粧品などの動きが鈍く11カ月連続の減少となった。

## ● 専門量販店販売額

4 カ月連続増加

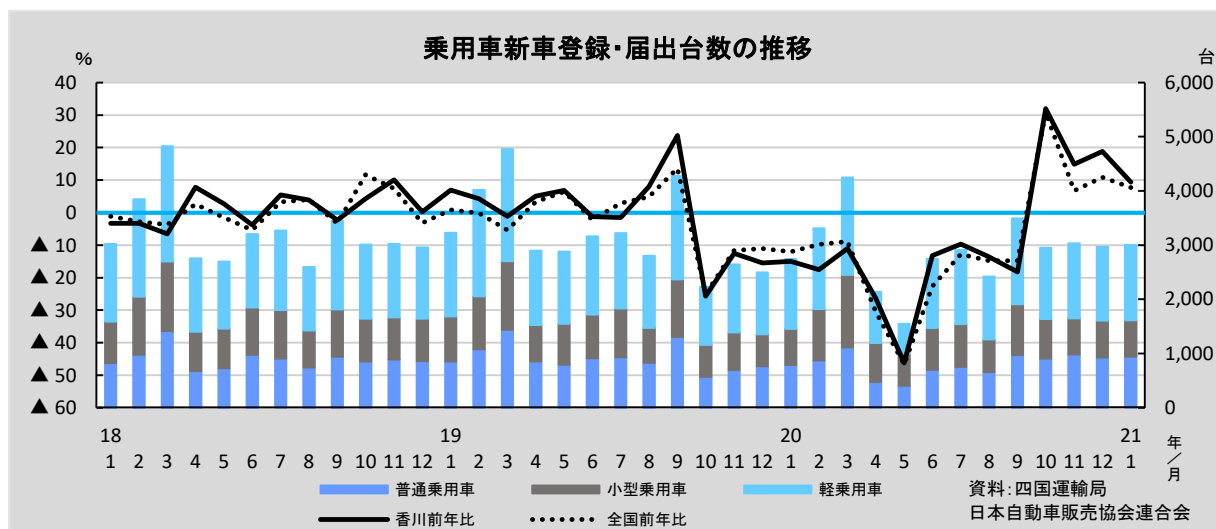


1月の専門量販店全店（202店）の販売額は93.5億円で、前年同月比+15.4%と4カ月連続で増加した。

業態別にみると、暖房器具、AV・調理家電などが堅調に推移し**家電大型専門店**（29店）の販売額は、29.4億円で前年同月比+22.3%となった。マスク、除菌剤、日用品などが好調に推移した**ドラッグストア**（129店）の販売額は、43.5億円で同+11.2%。**ホームセンター**（44店）は暖房器具などの季節商品が好調で、販売額は20.5億円で同+15.3%となった。

## ● 乗用車新車販売台数

4 カ月連続増加



1月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,004台で、前年同月比+9.4%と4カ月連続で増加となった。

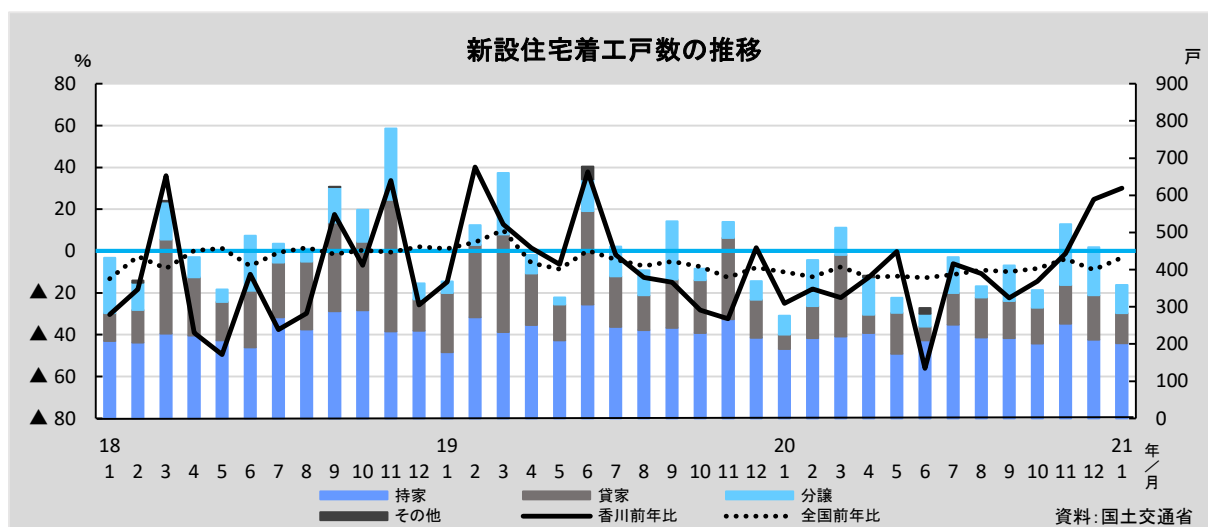
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+19.8%、小型乗用車で同+0.4%、軽乗用車で同+7.7%となった。

## 住宅投資

下げ止まっている

### ●新設住宅着工

2カ月連続増加 ↑



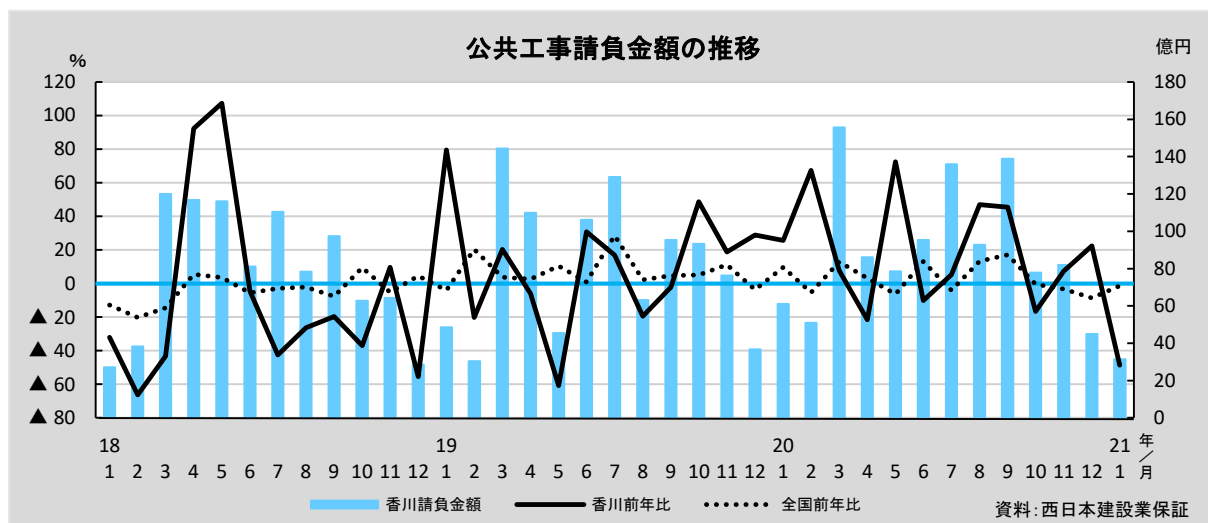
1月の新設住宅着工戸数は359戸で、前年同月比+30.1%と、2カ月連続で増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+8.0%、**貸家**で同+113.2%、**分譲住宅**で同+49.0%となった。

## 公共投資

高水準で推移している

### ●公共工事請負金額

3カ月ぶり減少 ↓



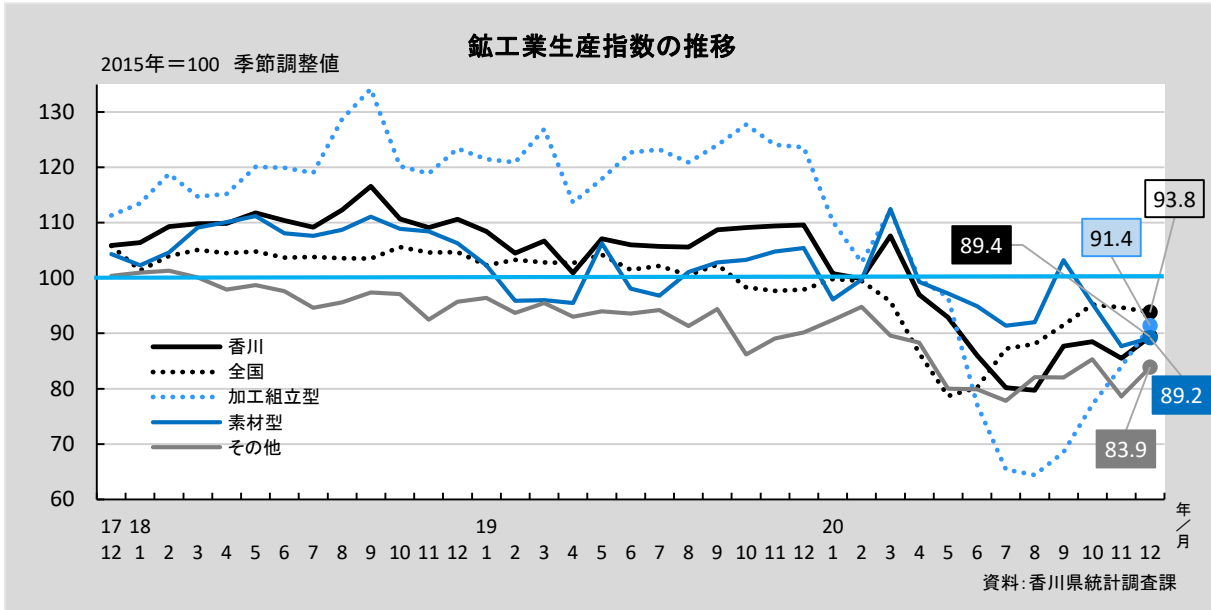
1月の公共工事請負金額は31.4億円で、前年同月比▲48.6%と3カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲89.1%、**県**で同▲38.4%、**市町**で同▲67.9%となった。2020.4月～2021.1月の年度累計では前年同期比5.8%増加している。

生産活動

持ち直しの動きがみられる

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり上昇 ↑



12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は89.4（前月85.5）となり、2カ月ぶりに上昇した。

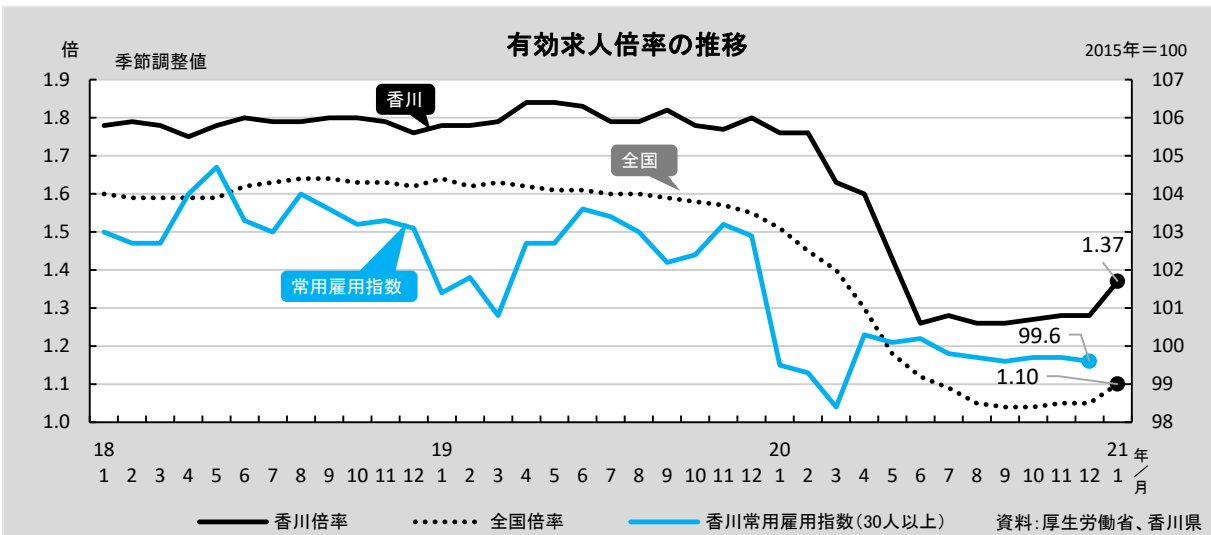
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品）は前月比+41.5%、加工組立型の電気機械工業（開閉制御装置）は同+10.9%と上昇した。一方、素材型の非鉄金属工業（電気金）は同▲11.1%と低下した。

雇用情勢

求人減により弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

2カ月ぶり増加 ↑



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.37倍（全国3位）と前月より0.09ポイント上昇した。

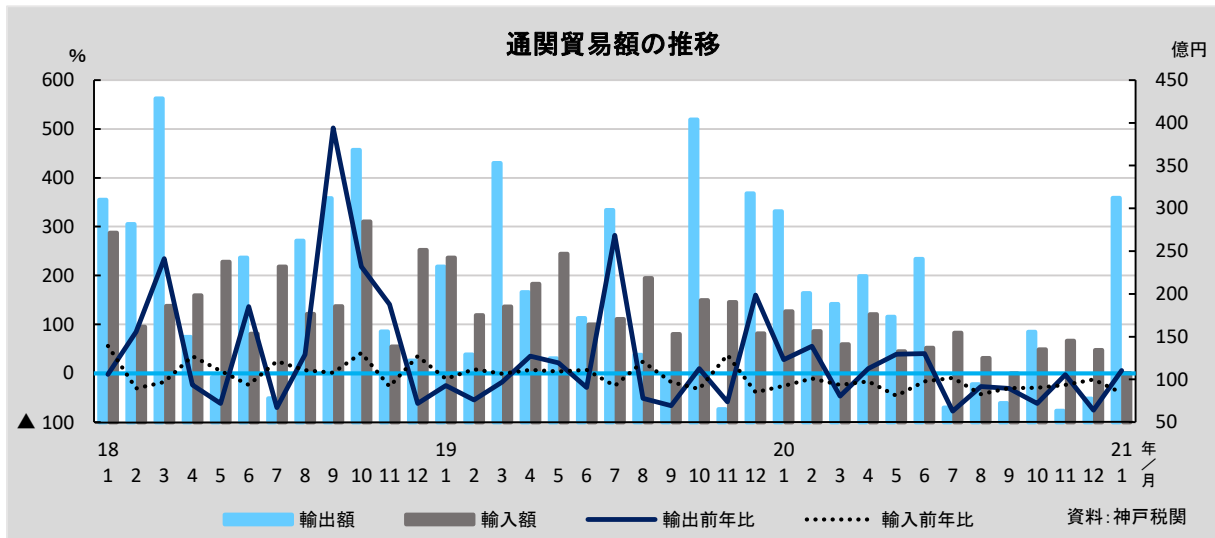
新規求人（原数値：前年同月比）は、建設業、運輸業・郵便業等で増加し、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業等で減少となり、全体で▲3.6%と13カ月連続で減少した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.6となり、前年同月比は17カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.36
事務的職業	0.59
販売の職業	2.15
サービスの職業	3.18
生産工程の職業	1.72
輸送・機械運転の職業	2.14
建設・採掘の職業	6.96
運搬・清掃・包装等の職業	0.95

## 貿易

輸出、輸入ともに弱い動きとなっている



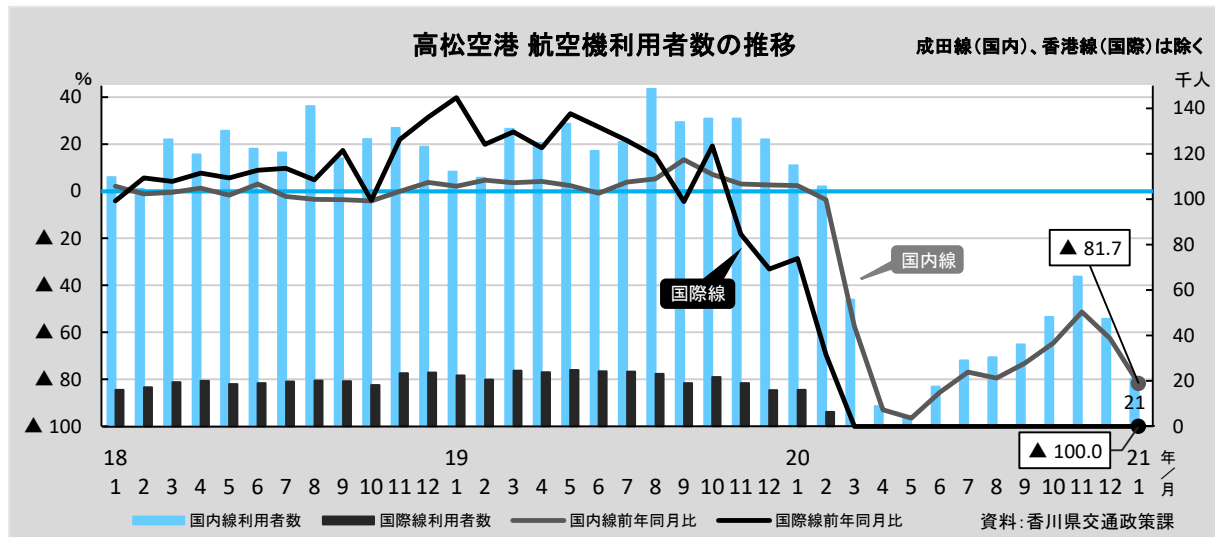
1月の輸出額は前年同月比+5.4%の312.4億円、輸入額は同▲40.2%の107.3億円となり、差し引き205.1億円の出超となっている。

輸出額増の主因は、石油製品輸出額が前年同月比+35.2%の30億円となったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲72.7%の17億円となったためである。

## 交通

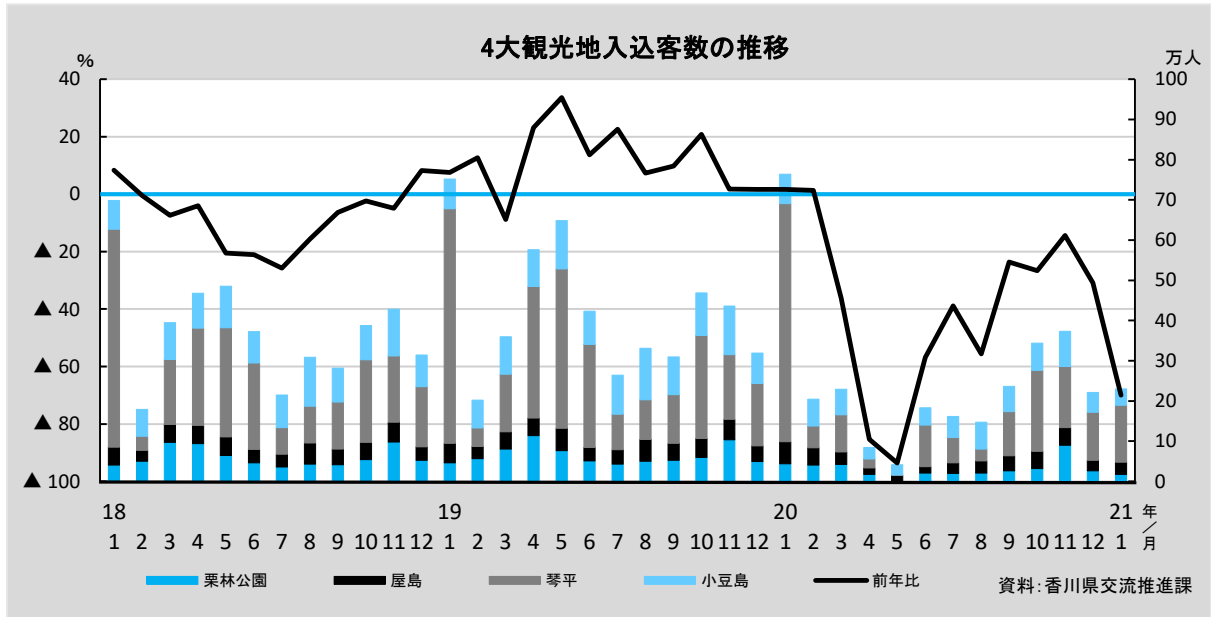
国内線は12カ月連続減少、国際線は11カ月連続全面運休

### ●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が21,006人(前年同月比▲81.7%)となり、12カ月連続で減少した。羽田線は19,582人(前年同月比▲81.9%)、那覇線は1,424人(同▲79.0%)となった。国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により11カ月連続の全面運休となった。

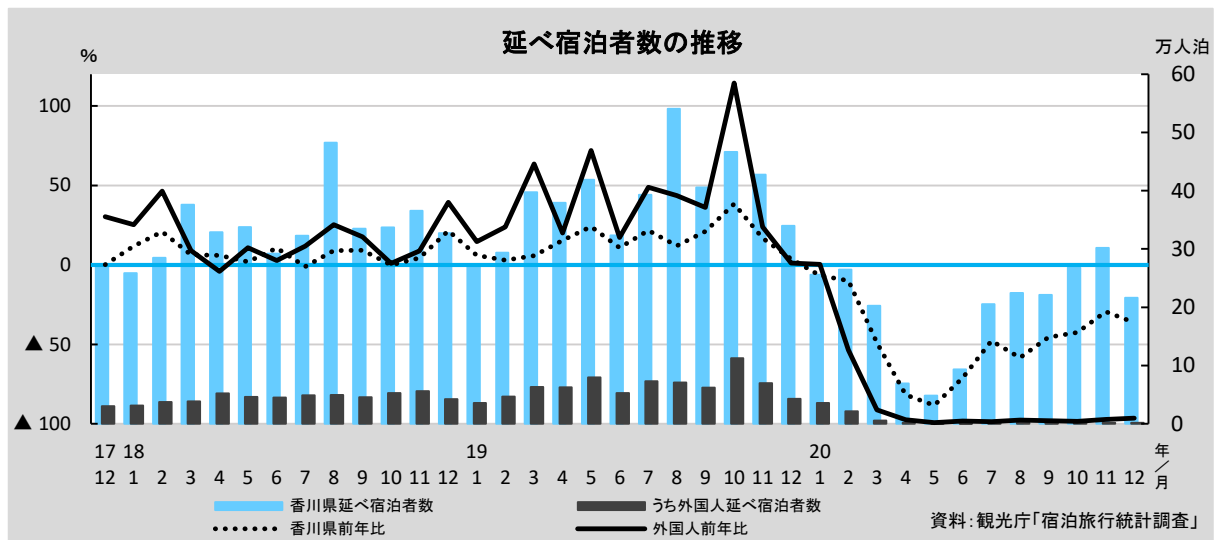
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
1月(人)	前年同月比	17,928 ▲59.3%	29,576 ▲46.0%	142,000 ▲76.0%	40,291 ▲45.0%	229,795 ▲69.9%

1月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲69.9%と11カ月連続で減少。コロナ感染再拡大による国の緊急事態宣言を受けての不要不急の移動自粛で、全ての観光地で大幅に悪化した。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数は216,310人で、前年同月比▲36.3%と12カ月連続で減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は1,500人となり、同▲96.5%と11カ月連続で減少した。